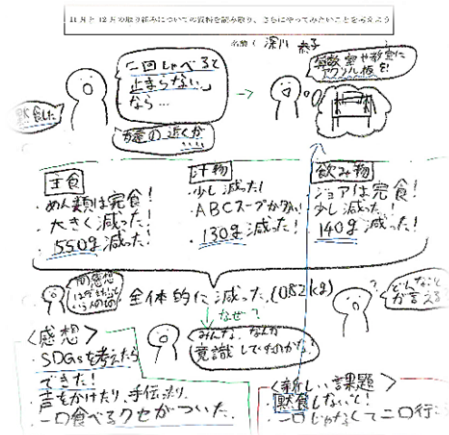


令和3年度 校内研究

楽しみに思える未来を 創造する児童の育成

～「みらい科」「教科学習」を通して～



新宿区立落合第六小学校

I 研究の概要

1 研究構想図

教育目標

【新宿区教育目標】

- 広い視野と、自らを律し互いを認め、思いやりの心をもつ人
- 地域の一員として、規範意識や公共の精神に基づき、社会の形成に進んで参画する人
- 個性や創造力が豊かで、自ら学び、考え、行動する人

【落合第六小学校教育目標】

- ☆明るい子 人格を尊重し合い、社会性豊かな子ども
- ☆たくましい子 心身共に健康で、ねばり強く行動する子ども
- ☆考える子 ものごとを深く考え、主体的に行動する子ども

課題

【今日的な課題】

予測不能な未来
変化が大きい社会

【本校の課題】

「教科学習」において、おちろくDASHの
ような児童の主体性が見られない

教育課程特例

「みらい科」の創設

社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む教科

研究主題

楽しみに思える未来を創造する児童の育成
～「みらい科」「教科学習」を通して～

目指す児童像

自ら考え、判断し、行動できる児童



研究内容

「みらい科」「教科学習」において大切にしたい3つの研究の視点

| 視点 | 教師が共通で取り組む手立て |
|--------------|--|
| 自ら活動に取り組むために | <ul style="list-style-type: none"> ・実生活と関わりのあるテーマの設定 ・課題や解決方法の選択ができる学習計画 ・何度もやり直しができる場の設定 |
| 考え・判断できるために | <ul style="list-style-type: none"> ・思考・判断のための素地の醸成 ・成果と課題の可視化 ・ふりかえりの工夫 |
| 行動できるために | <ul style="list-style-type: none"> ・個性が表現・発揮できる場の設定 |

2 研究主題

(1) 研究主題

楽しみに思える未来を創造する児童の育成

～「みらい科」「教科学習」を通して～

(2) 研究主題との関連

①研究主題と育てたい力について

平成 28・29 年度に本校が提案した新教科「みらい科」の校内研究も今年度で 6 年目をむかえる。これからの予測がつきにくい未来をよりよく生きていくために、人間の強みである「感性」、「創造性」、「協働性」などを生かし、一人ひとりが未来の創り手となっていき未来を切り開いていけるような児童に育てて欲しいという思いが中心にある研究である。

「共に未来を創造する児童の育成 ～これからの資質・能力を育むカリキュラムデザイン～」をテーマにした研究では、「縦割り創造活動（通称：おちろくDASH）」を中心に、異学年で相談し、いきいきと活動する中で学びあう姿が見られている。ただ昨年度の課題として、「縦割り創造活動ではいきいきと活動している様子が見られるが、教科学習ではその主体性が発揮されていない」ということも挙げられていた。

そこで、今年度は以下の 3 点を大切に、研究を進めることにした。

- ・「縦割り創造活動」の中で育てたい力を明確にし、教師がその視点をもつこと。
- ・児童が教科学習の枠を超えて、様々な場面で学んだことを生かせるよう多角的に計画すること。
- ・主体性を発揮できるような学びを教科学習の中にも取り入れていくこと。

②研究の 3 つの視点

本校では、「みらい科」「教科学習」の双方において、様々な学習で得た知識を総合的に使う経験を積む中で「自分で考え、判断し、行動できる児童」を育成したいと考えている。その為に、以下 3 点を視点として整理し、具体的な手だてを講じることで目指す児童像に迫っていくことにした。

- ・「自ら活動に取り組むことができる（児童）」
- ・「(課題を決め) 考え、判断することができる（児童）」
- ・「(自分らしく) 行動することができる（児童）」

特に今年度は、研究授業の際も、その 3 つの視点の工夫をオーダーシートに示し、その視点で成果と課題を考えることで、より具体的な授業改善を目指してきた。もちろん、この視点は通常の教科教育でも大事にする視点であり、普段から意識して取り組むことで「児童が自分事として学ぶこと」、「授業自体が楽しく学びが明確になること」を大切にしたい授業を行うことを目指している。

また、本校研究の大前提として「肯定的・共感的人間関係の構築」は教育活動を支える土台であることを共通理解している。児童は、周囲から受け入れられるからこそ、挑戦することができ、自分なりの考えを発表することができる。本校の「みらい科」「教科学習」がそれぞれより深く学べるよう、日々の良好なかかわりや関係性の育成も意識して取り組んでいく。

3 研究の内容と方法

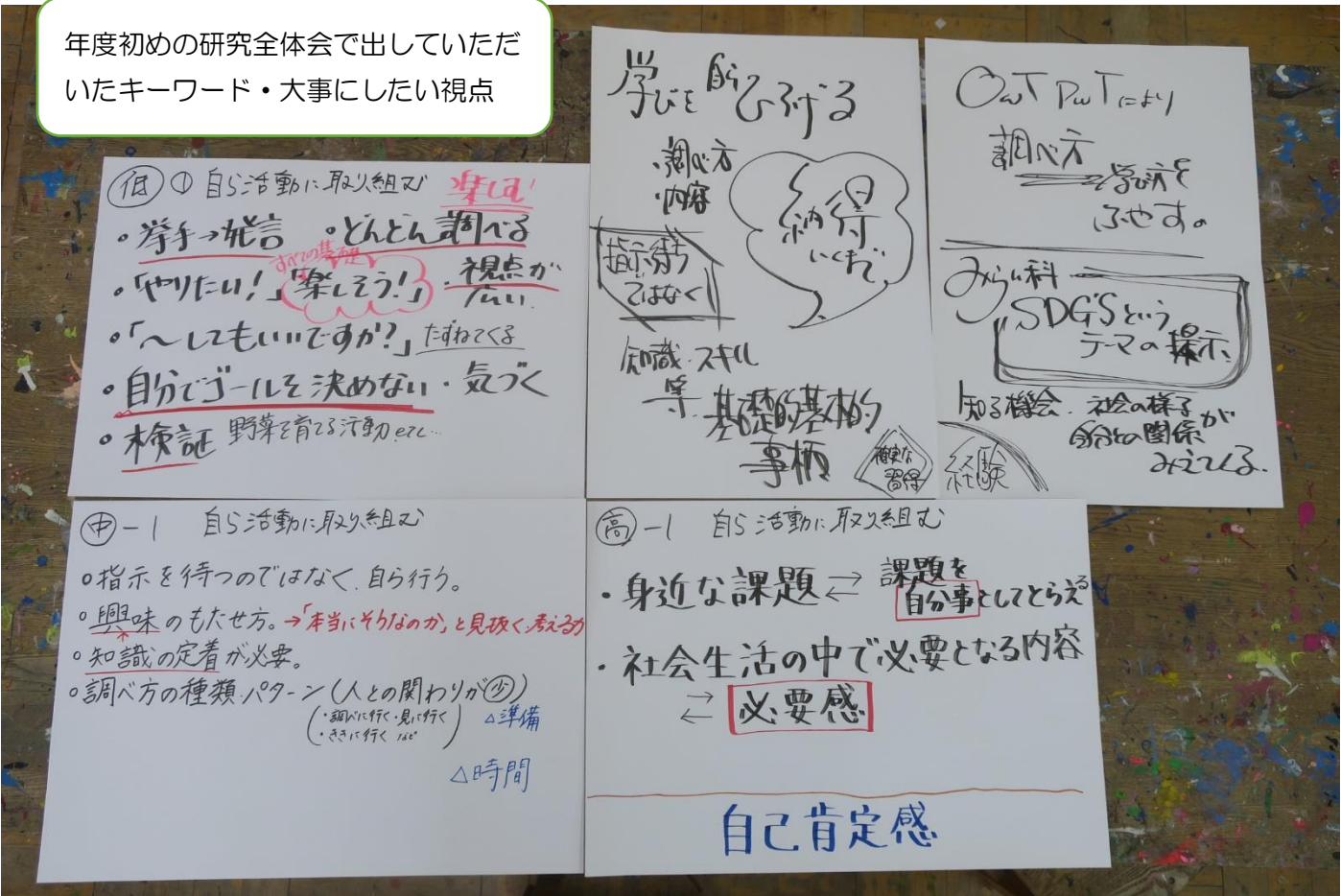
(1) 「自ら活動に取り組むことができる（児童）」の育成

- 「まずはやってみよう」という挑戦する姿勢
- 失敗しても追求する姿勢
- 「〇〇についてやってみたい」という思いをもつ姿勢
- 生涯を通して学び続ける姿勢

「自ら活動に取り組むことができる（児童）」を育成するには、まずは、学ぶことに興味・関心をもてる授業になっているかどうかを考えることからスタートする。そもそも、活動したいと思えるような内容になっているのか、ちょうどいい課題設定で自分の力で乗り越えたと思える課題になっているかを十分に計画した授業づくりを行う。具体的には以下3点を視点とし計画する。

- ① 社会生活の中で必要感を感じる内容を取り入れ、課題を身近に感じさせるとともに、学習の必要感を感じ取れるような授業になっているか。
- ② 答えが一つではない「問い」を用意したり、学習形態や学習方法が選択できたりするようにし、児童自らの力で解決できるように、または解決できると実感できるような場になっているか。
- ③ 何度失敗しても、その原因について考え、再挑戦できる場を設定していき、経験したことを基に発展できるような学習になっているか。

年度初めの研究全体会で出していただいたキーワード・大事にしたい視点

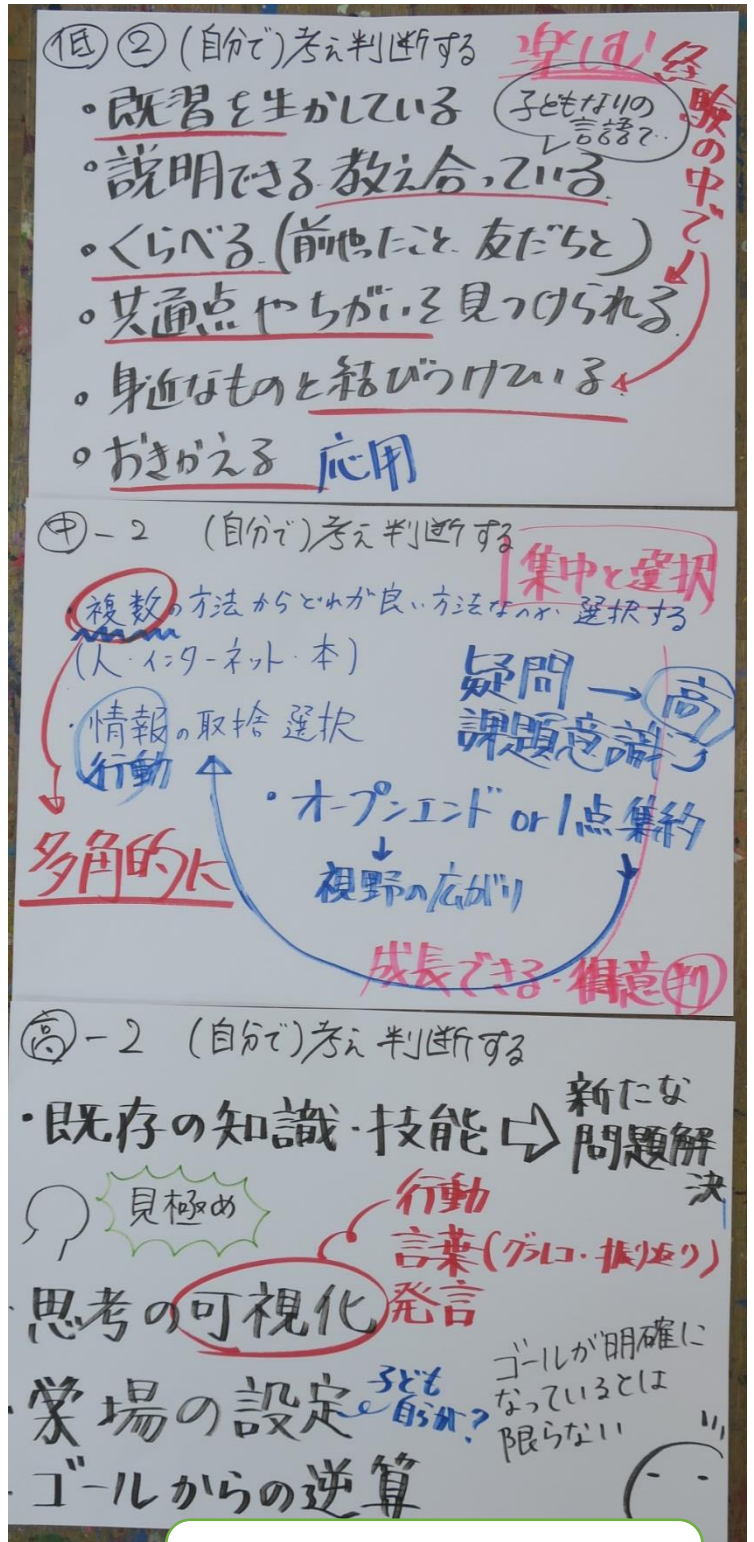


(2) 「(課題を決め) 考え、判断することができる(児童)」

- 様々なことに疑問をもち、何度も試し追求する姿勢
- 様々な意見に耳を傾け新しい見方・考え方をもち姿勢
- 論理的・批判的・共有的視点でより良い方法を見つける姿勢

「(課題を決め) 考え、判断することができる(児童)」を育成するために、既存の知識・技能をもとに新たに獲得した知識・技能を把握し、それらを意識しながら問題を解決していく学習を提案する。また、必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択し、結論を決定していくために判断したり、意思決定したりすることができるような場をつくっていく。具体的には以下3点を視点とし計画する。

- ① 体験活動の充実を図り、思考や判断に必要となる様々な知識や技能を豊かな体験活動を通して獲得できるような活動になっているか。本物の技術に触れたり、児童自身が活動を体験したりと五感を働かせて学び取れる場にする。
- ② 自らの学びを振り返り、学習を調整する場面を「みらい科」や教科等の学びの中に意図的に位置付けていく。解決の方向性や方法を選択・判断できる機会を設けることで、児童は結論を決定していくために必要な判断や意思決定の力を身に付けることができる考えた。そのために、本時の振り返りだけではなく、ゴールを意識して学習活動の見通し、学習の進め方を調整しながら活動に取り組む活動を大事にする。
- ③ 「グラフィックレコーディング」などを取り入れ、考えや活動を可視化することにより、見えない関係を顕在化させたり、まとまりやつながりに気付いたりする場をつくる。



年度初めの研究全体会で出していた
いたキーワード・大事にしたい視点

(3) 「(自分らしく) 行動することができる (児童)」

- 行動を調整し、生き方を主体的に選択する姿勢
- 協力して社会や文化に参画する力を基に自分らしく表現する姿勢
- 楽しさの質を高める姿勢

「(自分らしく) 行動することができる (児童)」を育成するために、個性が表現・発揮できる場を意図的に設定していく。自分らしさを発揮して他者にもその良さを認めてもらうことは喜びにつながる。また、人と刺激し合う関係をもつことは、児童の活動に対する意欲を維持することにつながる。集団の中で、個性を発揮することが苦手な児童もいるが、自ら考え判断して取り組んだ課題や活動内容を友達や他学年に伝え、意見をもらうことが、次への自信につながるだろうと考える。

年度初めの研究全体会で出していた
いたキーワード・大切にしたい視点

③ (自分らしく) 行動(表現)する

- 自分を客観視できる
- やりにくくは、言えず
- 自分も人も認められる
- 表現力がある (他とはちがう)
- 得意なことがある、はずかしがらない

(Red notes: 他者の評価より 自分の評価、思いを形に上ることが、好きなこと、わかること、失敗をこらさない)

③ - 3 (自分らしく) 行動(表現)する

- 個性の発揮

④ - 3 (自分らしく) 行動(表現)する

- 発信する力
- 受けとめる力(きく)
- インターネット・本・インタビューなど 表現の手段を多く知る
- 文・絵・パワポなど 自分に合った表現方法を探す

(Red notes: △準備が大切です、△個人差、△日常生活に活かす)

自己肯定感
他者の評価より 自分自身の評価!!
これこそが「まじか」
もっと失敗すべき!!!

発信 → **受けとめる**

自分に合った表現法(手段)
多様な表現を認める

自分らしく行動(表現する)
未来のため

△準備・個人差・非日常
業にも理解が必要

教師が「他種」をかけてあげた

「まじか...」
「あの子...」
「ははは...」
「おは...」

「まじか...」
「あの子...」
「ははは...」
「おは...」

自分らしく行動できる子